

第 1 章 障害理解とは

第 1 節 「障害理解」ということのも義性

第 2 節 「障害理解」の具体的内容

第 2 章 障害理解プログラムとその学習効果

第 1 節 障害理解のためのさまざまなプログラムとその比較

第 2 節 障害理解諸プログラムの比較

第 3 章 ICF の視点での障害理解

第 1 節 ICF での障害の概念

第 2 節 ICF の視点での障害理解のとらえ方

第 3 節 障害理解教育実践への若干の提言

第 4 章 社会モデルにもとづく障害理解

第 1 節 社会モデルでの障害のとらえ方

第 2 節 社会モデルの視点からの障害理解の概念の検証

第 3 節 社会モデルの視点での障害理解

第 4 節 社会モデルの視点にたつ障害理解教育

第 5 章 視覚障害疑似体験の検証と有効な実施方法

—当事者評価にもとづくプログラムの改善—

第 1 節 視覚障害疑似体験に対する障害当事者の評価

第 2 節 障害当事者の意見・提案にもとづく障害疑似体験プログラムの改善

第 3 節 新プログラムによる体験学習の実践

第 6 章 点字学習から障害理解教育へ

—小学校国語科教育からの展開—

第 1 節 小学校における点字学習

第 2 節 小学 4 年の授業の実態（調査と結果）

第 3 節 考察—点字学習から障害理解教育へ
（可能性と課題）

第 7 章 言葉・ことわざにみられる障害観

—社会モデルの視点による検討—

第 1 節 障害に関する言葉に対する社会モデル視点からの
検証

第 2 節 障害に関することわざに対する社会モデル視点
からの検証

第 3 節 障害に関する言葉・ことわざについての考察

第 8 章 自らの「障害」体験から

第 1 節 軽度難聴と社会モデル—モデルはどこまで適用
できるか—

第 2 節 嗅覚がないのは障害か／障害でないか

第 9 章 あらためて「障害を理解する」とは

第 1 節 「障害理解」の多様性・複雑性

第 2 節 他者の障害を理解できるのか

第 3 節 なぜ障害理解が必要か

第 4 節 障害者差別解消法は障害理解に資するか

第 5 節 パラリンピック「学校連携観戦」は障害理解に
つながったのか